

長期受験の果てに掴んだ「合格の真髄」 生活習慣とマインドセットが変える公認会計士試験への道

本記事では、論文式試験に6回挑戦し、長年にわたる苦闘の末に合格を勝ち取ったH・Kさんの貴重な体験談をお届けします。

H・Kさんが、いかにして長期化の焦りや落ち込みを乗り越え、最終的に何を変えることで合格を掴み取ったのか。単なる勉強テクニックに留まらない、合格するための「生活習慣」の改善や、受験生としての「基本的な振る舞い」の重要性など、合格者だからこそ語れる深い洞察が満載です。

学習の環境作りの工夫をご確認ください。

登壇者紹介

H・Kさん

・経歴：
短答式試験、論文式試験ともに複数回受験。長期化するも、勉強を継続し合格。

・学習スタイル：
毎日校舎に行く、講義は配信翌日に受講する、答練はオンタイムで受けるなど、基本に忠実にやるべきことを淡々とこなす。

・モチベーション：
精神的な拠り所となる存在に支えられ、勉強を継続。CPAを信じて合格へと突き進む。

インタビュー

長期受験の現実と合格への道のり

――H・Kさんは、非常に長い受験期間を経て今回の合格を勝ち取られたとお聞きしています。改めてその経緯についてお聞かせいただけますか。

H・K：
とんでもなく長い受験期間でした。短答式試験も何度も受けましたし、特に論文式試験は今回の令和7年度で**6回目**という挑戦でした。途中で科目合

格したこともありましたが、最終的に全科目合格に辿り着くまでは、本当に長い道のりでした。

――長期間にわたって勉強を続ける中で、どのようなことを感じておられましたか。

H・K：
受験期間が長くなると、単に「合格できるか」という焦り以上に、**精神的な落ち込みが大きくなっていく**んです。周りの大学時代の友人たちが就職し、結婚したり昇進したりとライフステージを上げていく中で、自分だけが何年も同じ場所に留まって何も変わっていない。その現実打ちのめされる瞬間が一番辛かったですね。重い焦燥感がありました。

――その状況で学習を継続し、最終的に合格を掴み取られたのは素晴らしいと思います。勉強が長期化する中で、どのような支えが必要だと感じていましたか。

H・K：
一番は精神的な拠り所となる存在です。受験期間が長くなると、勉強時間の確保に波が出てしまったり、自分のやっている方向性が正しいのか分からなくなったりすることが増えます。そうした時に、単に科目の内容を教えるだけでなく、**受験生活全般の相談に乗ってくれ、心に寄り添ってくれ**る存在の重要性を痛感しました。

寄り添う指導と「弱み」を共有する価値

――特定の科目の専門講師とは別に、全般的な学習相談やメンタルケアをしてくれる存在が必要だということですね。

H・K：
例えば、吉田学習アドバイザーのように、ご自身も**受験時代に苦労した経験や、自分の弱みを隠さずに発信してくださる方は、受験生にとって非常に安心感**があります。「この講師も苦労したんだ」と知ることによって、自分も頑張れると思えました。

――短期で高成績を収めて合格した講師ばかりではなく、試験で苦労した経験を持つ人の言葉には、相談しやすさや説得力があるということですね。

H・K：

講師の方々が、ご自身の受験時代の**失敗談や弱みを自己開示して下さることで**、受験生は「寄り添ってもらえている」と認識できます。完璧な人のアドバイスも大切ですが、**泥臭く這い上がった経験に基づく指導**は、特に長期受験生にとっては大きな救いになります。

どの科目も浅く広く相談でき、かつ精神面でも支えてくれる、そんな全般的な視点を持つサポート体制があったのは良かったです。

――メンタル維持という点では、講師以外に周囲の環境はどう影響しましたか。

H・K：

メンタルを安定させられた大きな要因の一つは、**大学院時代の友人たちとずっと一緒に勉強できたこと**でした。予備校内での友人というわけではありませんでしたが、**同じ目標に向かう仲間**の存在は、やはり計り知れないほど大きかったです。

メンタル維持のための具体的な工夫とアイテム

――H・Kさん個人として、日々のモチベーションを維持するために行っていた工夫はありますか。

H・K：

講師の方々が定期的に発信している、**モチベーションを上げるためのポストや動画には本当に助けられました**。吉田講師の「心の授業」のような、勉強そのものだけでなく、心の持ち方を説くコンテンツは、直前期の張り詰めた時期に大きな支えになりました。

――物理的な環境面での工夫はどうでしょうか。

H・K：

毎日同じ場所で勉強しているとマンネリ化して、集中力が切れてしまうことがあります。そこで私は、あえて毎日勉強する校舎や場所を変えていました。**環境を変えることで気持ちをリセットし、新鮮な気持ちで机に向かえるように工夫**しました。

――校舎を変えるというのは、良い気分転換になりそうですね。その他に使用していたアイテムなどはありますか。

H・K：

使用するペンを自分に合ったものに変えたり、強制的にスマホを触れないようにする「**スマホロックボックス**」を取り入れたりしました。これらは他の受験生や講師の方が勧めていたものですが、実際に取り入れることで、学習の質を少しずつ高めることができました。

自分で自分の機嫌をとりながら、**いかにして集中できる環境を構築するか**を常に考え続けていましたね。

CPAへの移籍と継続の理由

――H・Kさんは他校からCPAへ移籍されましたが、その決断に至った理由は何だったのでしょうか。

H・K：

一番は「**環境を変えたかった**」という思いです。当時、CPAが非常に勢いよく伸びていた時期で、その新しい環境に身を置いてみたいという興味がありました。

――実際に移籍してみて、その後ずっとCPAで学習を続けられたのはなぜですか。

H・K：

コロナ禍以降、**CPAのシェアが圧倒的に高くなった**ことが大きな理由です。周りの多くの受験生がCPAの教材を使っている状況で、自分だけが他校に移ると、万が一CPAが手厚く対策していた論点が**試験で出てしまうと差をつけられて不利になります**。「メリット・デメリット」を冷静に判断しました。

――様々な要素を重視したのですね。

H・K：

また、直近3年間の論文式試験の結果が、合格点の52には届かないまでも、常に50前後で安定していました。実力が合格圏内まで来ていることは分かっていたので、このまま**CPAの教材を信じて**、質と量を積み上げていけば必ず合格できるという確信がありました。だからこそ、環境を大きく変えるのではなく、今ある環境で自分自身のやり方を微調整していく道を選びました。

勉強方法の「劇的な変化」よりも 「質と量の追求」

――合格された令和7年度では、勉強方法を大幅に変更したのでしょうか。

H・K：
実は勉強方法そのものを劇的に変えたわけではありません。魔法のような新しいメソッドを取り入れたというよりは、ひたすら**勉強の「質」と「量」を上げるための工夫**を積み重ねました。

――「質」と「量」を向上させるために、具体的に意識したことは何ですか。

H・K：
自分に合った勉強スタイルが何なのかを、**5月模試が終わる頃まで徹底的に考え抜きました**。先ほどお話ししたスマホロックボックスもそうですし、時間の使い方の細部まで見直しました。結局、**公認会計士試験は「正しいやり方」で「十分な量」をこなすことが全て**です。自分のモチベーションに頼るのではなく、自然と勉強ができる**「仕組み」を作ることに注力**しました。

――特別なことではなく、当たり前レベルを底上げしたということですね。

H・K：
勉強の内容そのものを変えるよりも、勉強を継続するための**「生活習慣」を含めたトータルの過ごし方を見直した**ことが、合格の決定打になったと感じています。長期受験生にありがちなのですが、勉強のやり方が悪いという以前に、勉強を続けるための**生活自体に何らかの問題**があることが多いので、その改善に力を尽くしました。

合格を決定づけた「基本的な生活習慣」への回帰

――その「生活習慣の改善」について、具体的にどのような行動を徹底されたのか詳しく教えてください。

H・K：
非常に当たり前なことばかりですが、まずは**「答練を絶対にオンタイムで受けること」**です。これまでは予定を先延ばしにしてしまうこともありましたが、昨年度は実施されたらすぐに、あるいは

決められた時間に必ず受けることを徹底しました。

――講義の視聴についても同様ですか。

H・K：
講義が配信されたら、その**当日か翌日には必ず視聴する**。そして、できる限り**毎日校舎に足を運びました**。昨年度はロッカーを借りていなかったので、毎日荷物を持ち運ぶ必要がありましたが、それでも校舎に行くことを自分に課しました。

――徹底した自己管理ですね。その他にはどのような習慣を？

H・K：
精神衛生上、**日の光を浴びることも意識**しました。ずっと校舎にこもるのではなく、外に出て日光を浴びる。また、**友人とランチを共にして、「今日は何を食べようか」といった些細な話題で気分転換**をすることも**楽しみ**の一つにしていました。こうした**小さな楽しみを学習の助け**にしながら、理想的な受験生像を模倣し続けました。

――特別なテクニックではなく、基本的な受験生としての振る舞いを完遂したことが合格に繋がったのですね。

H・K：
今振り返れば、**基本的な受験生になりきれなかったことこそが、長期化した原因**だったと痛感しています。昨年度、やっとその**「当たり前」**のことが高いレベルでできるようになったからこそ、合格できたと思います。**基礎を疎かにせず、決めたことを淡々とこなすこと**の強さを実感しました。

内部進学組の壁と「勉強の作法」

――H・Kさんは、内部進学で大学まで進まれたとお聞きしました。その背景が受験勉強にどう影響したと考えていますか。

H・K：
非常に大きく影響しました。私は中学受験で一貫校に入り、その後は大学受験を経験せずに進学しました。つまり、大学受験という**「自立して勉強のやり方を確立する」経験が欠落**していました。中学受験の時の記憶は親に言われてやっていたという感覚で、自分の経験として使えるものではありませんでした。

「講義を受けたら復習する」「答練に向けて計画的に仕上げる」といった、**一般的な受験経験者**が

当たり前だと思っている作法が、自分には備わっていませんでした。

勉強のスタートラインに立つための「基礎体力」のようなものがなかったことが、初期のつまずきと長期化の大きな要因でした。

——多くの受験生が前提としている「勉強のやり方」そのものを、一から身につける必要があったのですね。

H・K：

だからこそ、私のような背景を持つ受験生は、まず「どうやって勉強すべきか」という方針を最初にしっかりと固めることが重要です。講師の方々が講義の冒頭などで話される方針を聞き流すのではなく、それを自分の行動にまで落とし込むことが必要です。

自分のやり方に固執せず、予備校が推奨する「王道」に自分を当てはめていく作業が、大学受験を経験していない受講生には特に必要だと感じます。

受講生へのメッセージ

——最後に、合格を目指して奮闘している受講生、特に同じように受験期間を重ねている方々に向けてメッセージをお願いします。

H・K：

改めて強く感じるのは「CPAが言っていることを、本当に1から10まで忠実にやっていたら合格できる」ということです。

自分のやり方を模索することも時には必要ですが、結局は予備校が提示しているカリキュラムや、基本的な受験生の振る舞いを徹底することが、合格への最短ルートです。

——非常にシンプルですが、最も難しいことでもありますね。

H・K：

それを「当たり前」にこなせるようになった時、結果は必ずついてきます。受験が長期化して悩んでいる方も、今一度自分の生活習慣を見直し、基本に立ち返ってみてください。CPAを信じて、やるべきことを淡々と積み重ねていけば、道は必ず開けます。応援しています。

まとめ

今回のインタビューから得られた、合格のための重要なポイントをまとめました。

・「生活習慣」の徹底改善

答練をオンタイムで受ける、講義を計画通り視聴するなど、**当たり前のことを高いレベルで継続する**

・メンタル維持の環境作り

毎日勉強場所を変えて気分転換を図り、仲間との交流や日光を浴びるなどの小さなリフレッシュを大切に

・自分に合ったツールの活用

スマホロックボックスや文房具など、集中力を維持するための「仕組み」を積極的に取り入れる

・自己開示できるメンターを見つける

自分の弱みや悩みを素直に打ち明けられる、共感性の高い指導者や仲間の存在が長期戦の支えになる

・予備校の方針を忠実に実行

自分のやり方に固執せず、予備校が推奨する「王道」を愚直に模倣することが合格への最短距離である

公認会計士試験は、時に自分の限界を試されるような苦しい時期もあります。しかし、今回お話しいただいたH・Kさんのように、自身の生活習慣を見直し、基本を徹底することで、どんなに厚い壁も必ず乗り越えることができます。

